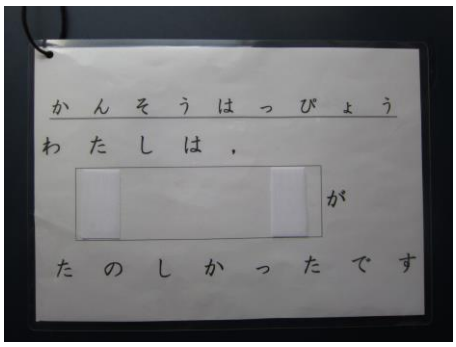
【教材・教具名】 発表しよう	【教科・領域】 日常生活の指導	【対象】 小学部１年

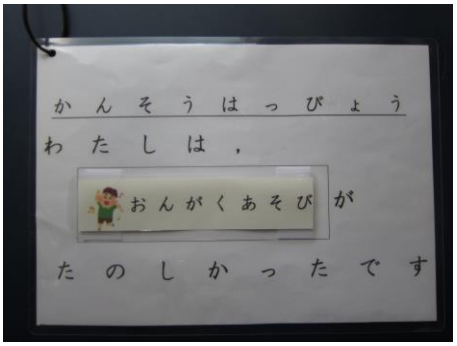
【ねらい】
・たくさんの先生と触れ合い，あいさつをする。
・「ください」の言葉やしぐさで，シールをもらい，お礼をする。

〇教材の使い方



感想発表カードの台紙　　**活動カード**

工夫点１　工夫点２
・出来事だけを張り替える台紙　　・児童が選びやすいイラスト付きカード
・児童の机の脇につり下げる台紙



感想発表カード帰りの会での発表の様子

工夫点３工夫点４
・児童が経験した出来事で発表しやすい簡単な文・児童が持ちやすい大きさのカード
・マジックテープ付きカードで付けたり外したり・毎日，学級の友達や教師からの称賛の簡単にできる拍手があり，自信がもてる

〇効果・改善点
・発表のパターン化をすることで，自信をもって表現することができるようになった。
・一日の振り返りを行うことで，日常生活での予定を確認し，見通しをもって行動するようになってきた。
・今後，経験した出来事をさらに詳しく表現したり，質問に答えたりとコミュニケーション能力を高めていきたい。

【教材・教具名】	【教科・領域】	【対象】
あるいて　ぱっちん　カード	自立活動	小学部　１年

【ねらい】
・たくさんの先生と触れ合い，あいさつをする。
・「ください」の言葉やしぐさで，シールをもらい，お礼をする。

〇教材の使い方

・ごほうびシール

・場所カード

・場所カード（ケアルーム，保健室，事務室，職員室，校長室）を見て，行きたい場所を選ぶ。
・目的の場所まで，一人で歩く。
・ノックをする→ドアを開ける→その場所にいる人の所へ行く→挨拶をする（礼をする）→タッチをする→シールを貼る台紙を差し出す→お礼をする

〇工夫点
・場所カードとごほうびシールを場所のみの写真，児童が好むキャラクターシールから児童と先生が映っている写真に変えていった。

〇効果・改善点
・夏休み明けから始め，回数を重ねるにつれて，自分で場所を選んだり，声掛けだけでノックをしたりすることができるようになった。教師と手をつなぐことなく，目的の場所へ行き，真っすぐにその場所にいる先生方に向かい，「シールを下さい」という教師の言葉でカードを示したり差し出したりして相手に依頼することが出来るようになった。

【教材・教具名】	【教科・領域】	【対象】
マウススイッチ	生活単元学習，国語・算数	小学部２年

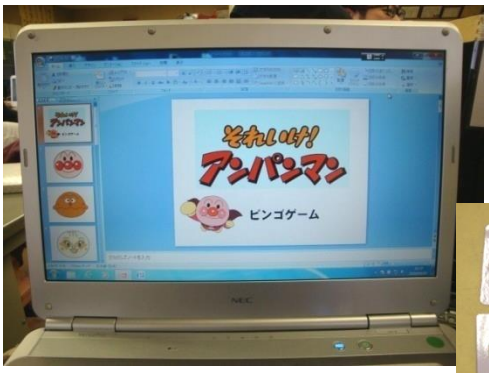
【ねらい】
・スイッチを操作することでＰＣの画面が切り替わり，児童がゲームに参加することができる。
・画面に表示された画像と同じものを選択することができる。

〇教材の使い方

ミニプラグのジャックつきマウス

ボタンスイッチ

全方向スイッチ



ビンゴゲーム用パワーポイントのプレゼン

パワーポイントと同じ画像を用いたイラストカード

①少し大型のマウスを加工し，ミニプラグのジャックを設置する。（断線など，マウスの機能を損なわないように注意する。）

②ミニプラグに児童の実態に応じてボタンスイッチ，又は全方向スイッチを使用し，マウスのジャックに接続する。

③児童が好きな画像（アンパンマンなど）を使ってパワーポイントのプレゼンを作成する。プレゼンはクリックを続けるかぎりループするように設定する。

④ボタンスイッチ，又は全方向スイッチを操作するとＰＣの画面が切り替わる。画像が切り替わるときに効果音を設定するとさらに楽しくなる。

⑤プレゼンと同じ画像でカード作成し，児童が同じ画像を選択できるようにする。

〇工夫点
・児童の実態に応じてスイッチを選択できるようにした。
・全方向スイッチは，棒の先端にゴムを付けることで，不随意な動きであっても適切な操作ができる。
・パワーポイントを使うことで容易に教材の作成ができる。

〇効果・改善点
◎スイッチを操作することで画面が切り替わるという因果関係を理解することができた。
◎自分がゲームに参加しているという楽しさを味わうことができた。
△ビンゴゲームの場合，同じ画像が何度か出てしまうことがあった。
△スイッチが敏感に反応しすぎる（選ぼうとした時に画像が変わってしまう）ことがあった。

【教材・教具名】	【教科・領域】	【対象】
感想発表ボード	日常生活の指導	小学部３年

【ねらい】

帰りの会で，みんなに伝わるように感想発表ができる。

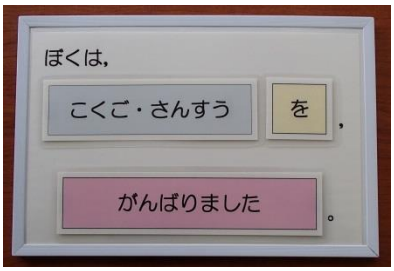
〇教材の使い方

【教材①】

授業名カード

助詞カード

感想カード



【教材②】

ホワイトボード
マーカー

参考カード

〇工夫点

・帰りの会の感想発表の場面で，言葉が不明瞭なことや発表内容が整理できず混乱することなどが原因で，皆に児の思いが伝わらないことが多かった。そこで，「さんすうがたのしかったです」のように「授業名＋助詞＋感想」の順で，カードをボードに貼って感想文を作るようにした（教材①）。次に，発表の内容を深め「たいいくあそびのダンスをがんばりました」のように「授業名＋助詞＋何＋助詞＋感想」と感想の前に「どのようなことが」を加えて，文をボードに記入するようにした（教材②）。

・それぞれの欄とカードを同色にすることで，選択の際に分かりやすくした（教材①②）。

・ラミネート加工し，ホワイトボードマーカーで何度も記入出来るようにした（教材②）。

〇効果・改善点

・文の構成を決めることで発表中に戸惑うことがなくなった。また，文章を確認しながら発表することで一文字一文字を意識するようになり，はっきりとした言葉で話をすることができるようになってきた。

・文章を示しながら発表することで，不明瞭な発音でも，受け手側の教師が児の伝えたい内容を理解することができるようになり，伝わっていることを児に返すことができるようになった。

【教材・教具名】 写真カードで伝えよう	【教科・領域】 自立活動	【対象】 小学部３年

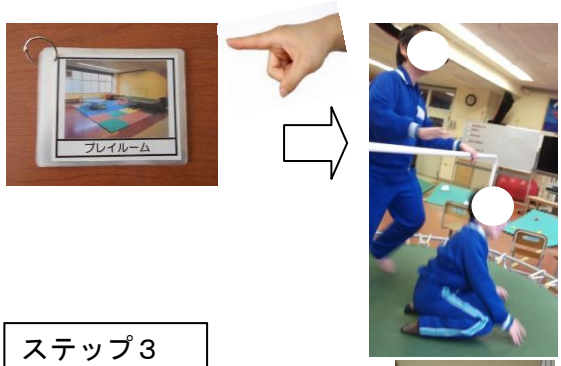
【ねらい】

・写真カードを活用し自分の意思を伝えることができるようにする。

〇教材の使い方

ステップ１

ステップ２



ステップ３

ステップ１

具体物と写真カードのマッチング

・写真カードを持って活動場所に移動する。

・活動場所と写真カードのマッチングをする。

・実物を使って楽しい活動を経験する。

ステップ２

写真カードの活用

・教師が指差しをやって見せる。

・本児の手に教師の手を添えて写真カードを指差し，要求動作を繰り返し練習する。

・写真カードを持って，活動場所に移動し楽しく活動する。

ステップ３

写真カードで要求行動

・要求の出やすい場面を設定する。

・自己選択する場面では，選択数を少しずつ増やしていく。

〇工夫点

・写真カードは，本児が常に見える場所に掲示し慣れるようにした。（黒板の活動場所を示す欄に掲示）

・携帯用に写真カードにリングを通して取り外しできるようにし，いろいろな場面で活用した。

〇効果・改善点

・本児の興味・関心のある場所や遊びを取り上げることで，写真カードへの意欲が高まった。

・楽しい活動と写真カードを関連付けたことで，カードの意味を理解することができるようになった。

・教師とのやり取りの中で理解できる写真が少しずつ増え，プールや体育館，給食室などの写真カードを指差し笑顔で活動できた。絵本も見るようになり，徐々に興味の幅が広がってきた。

・教師からの言葉掛けで要求を伝える場面が増えてきたが，定着するまで継続した指導が必要である。

【教材・教具名】 写真カード	【教科・領域】 日常生活の指導	【対象】 小学部３年

【ねらい】

・写真カードを活用し自分の意思を伝えることができるようにする。

〇教材の使い方

・場所の写真カードはリングで綴じて担任が持ち歩き，教室から他へ移動するとき、また体育館や校庭から教室へ戻る時などに使う。

・活動内容を示すカードは机に並べたり手に持って提示し,「トイレに行ってエプロン準備します。」「歯磨きしたら DVD を見ても良いです。」のように言葉掛けした。

・場所カードと活動内容のカードを併用し,「プレイルームへ行きますか。DVD を見ますか」と聞くと，カードを見比べてプレイルームのカードをとんとんとたたくなど，やりたいことを選択することができた。

〇工夫点

・活動内容のカードは実際に本人が使っている物の写真を使った。

・場所のカードは担任が持ち歩いて使用し，活動のカードは本人の机の中に置いておき，机に並べたり，小さいホワイトボードに並べて貼って提示するなどした。

〇効果・改善点

・普段はもちろん，多少気持ちが不安定なときでも概ねスムーズに次の場所・次の行動に移ることができた。

・歯磨きを嫌がる時期があったが，終われば次に好きなことができるという見通しをもつことができ，自分からコップを取りに行くなど苦手なことに取り組む意欲付けになった。

・写真の種類や大きさ・提示の仕方，また本人からの発信に使うためには，まだまだ工夫が必要である。

【教材・教具名】 「お店屋さんごっこ」	【教科・領域】 自立活動	【対象】 小学部５年

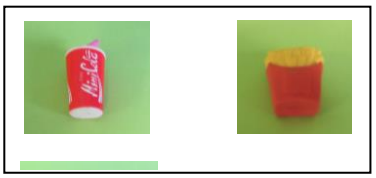
【ねらい】

・ある程度身近な具体物の名称を知っており，「～はどれ？」と聞かれると指さしで答えることができるが，「～をください」と言われると，手元にある複数の具体物を全て差し出す児童が，「～をください」の言葉掛けに正しく応じることができるようになることを目指す。

〇教材の使い方

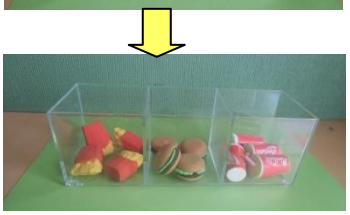
【step1】「～はどれ？」

写真カードにターゲットの具体物を全て掲載し，「～はどれ？」と聞いて指さしで応答させる。　（例）「ポテトはどれ？」



【step2】「同じ物同士，入れよう」

アクリルケースに具体物を一つずつ入れた状態で，具体物を一つ一つ手渡しし，アクリルケースの具体物の入った箇所を指さしながら「～をください」と言って，具体物と同じ物を入れるように促す。
最初のうちは，種類は１～２種類として，連続して同じ物を手渡しして入れるようにさせ，徐々に種類をランダムに渡していく。また，様子を見ながら入れる箇所の指さしを減らしていくとともに，種類も最大 3 種類まで増やす。



【step3】　「～をください」

児童の手元に具体物を置く。ミニチュアの買い物籠を持った教師が買い物籠を見せながら，「～をください」と言い，児童が対応する具体物を教師の持っている籠に入れる。
最初のうちは児童の手元に並べる具体物を２種類とし，籠に入れる動作を誘導する。正答率が上がってきた段階で手元に３種類並べるようにし，誘導を段階的に減らしていく。

〇工夫点

・具体物は児童が最近関心を強くもっている買い物の場面を想定し，対象児童の好みの食べ物や買い物籠のミニチュアを使用して，教材や活動への興味を引き出すようにした。
・step2 で，種類ごとに分ける活動では，最初は空き箱に仕切りのついたケースに分類して入れるように促したが，うまくいかなかった。ケースを透明な物に変更したところ，中身が見えることがヒントになり，同じ種類ごとに入れることができるようになった。

〇効果・改善点

（効果）対象物が児童にとって身近な物であれば，「～をとって」の言葉掛けに対して，手元にある全ての物を差し出すのではなく，要求された物を差し出すことができるようになってきた。
（改善点）扱っている具体物を児童の理解度をみながら変更していくこと。

【教材・教具名】 写真カード	【教科・領域】 コミュニケーション	【対象】 中学部２年

【ねらい】

・写真カードを使って教師にトイレに行きたいことを伝えることができる。

〇教材の使い方

①写真カードを選択する 。

②教師に手渡す。教師の「おねがいします」の声に合わせて両手で太ももをたたいてお願いする。

③教師の「いってきます」の声に合わせて両手で太ももをたたいて学級の教師や友達に知らせる。

〇工夫点

・「おねがいします」と「いってきます」のサインが一緒のため，教師の声のボリュームを変えて取り組んだ。

・写真カードの数を少しずつ増やした。

〇効果・改善点

・教師を探して写真カード手渡しするようになり，視野が広がった。

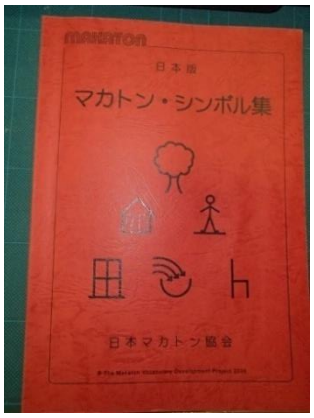
・自分から教師のところに写真カードを持って行くことができるようになった。

・本人の興味に合わせてカードの種類を増やしていった。

【教材・教具名】	【教科・領域】	【対象】
シンボルカード	学校生活全体	高等部１年

【ねらい】
・学校生活に見通しをもって過ごせるようにする。
・予想していた活動に変更が生じても受け入れることができる。

〇教材の使い方



着替え

体操

ホームルーム

①シンボル集から学校生活に必要と思われるシンボルを選ぶ。
②シンボルをコピーし厚紙に貼り付けカードを作る。
・カードは携帯しやすいような大きさにした。（4.5×4 ㎝位）
・カードと一緒にミニサイズのシールを作成。（連絡帳の日程表に貼るもの）
③日ごと予想される活動分のカードを携帯し、活動の移行時に提示するようにした。
・連絡帳にシールを一緒に貼る。
④シンボルで示しきれない概念も多々あるが、情報の一端を示すようにする。
⑤活動の見通しがもてるようになったら、カードの提示をしなくても良い。

〇工夫点
・常に持ち歩ける大きさに設定した。
・予想される活動分のカードを作成することで、繰り返し利用することができた。
・連絡帳の日程表もシンボルのシールを貼り、活動予定を知らせるようにした。

〇効果・改善点
◎見通しをもって活動に参加することができるようになった。
◎変更を知ることができるようになった。
△苦手な活動も予想できるようになり、参加を渋ることもあった。
△変更があることを理解できるが、受け入れることはできず感情を乱すことがあった。

【教材・教具名】 気持ちを伝えよう	【教科・領域】 日常生活の指導	【対象】 高等部１年

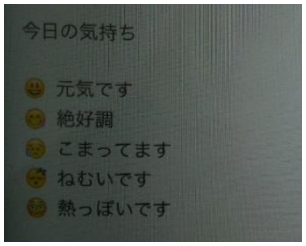
【ねらい】

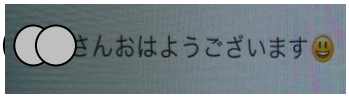
・自分の気持ちを相手に伝えることが困難な生徒が，朝の挨拶や今日の体調などをタブレットを使って相手に伝えることができる。

〇教材の使い方

☆ステップ１

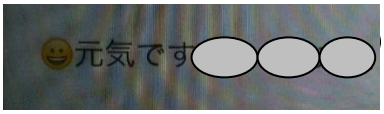
・あらかじめ，今日の体調サンプル顔文字を入力しておく。
・朝の挨拶を入力する。





☆ステップ２

・登校後，タブレットで挨拶を交わす。
・今日の体調を顔文字つきで入力してもらう。



〇工夫点

・コミュニケーションツールとしてカードなどを本人に紹介したが受け入れてもらえず，筆談を検討したが，自分の気持ちを自分の言葉で記述することができない現状では負担になると考え他の策を考えることにした。現場実習で映像に字幕を入力する仕事に携わり，ＰＣ操作，ローマ字入力，編集作業の理解力が高いと評価いただけたことを思い出し，タブレットを使用したコミュニケーションなら興味を持ってもらえるのではないかと考え提案した。ただ，自分の気持ちを文章表現したり発信することが困難な生徒なので，あらかじめ定型文を作成したうえでスタートした。教室でタブレットを取り出してコミュニケーションをとろうとした際，固まって受け入れてくれないことがあったので，朝の着替え後の人のいない更衣室で行っている。

〇効果・改善点

・コミュニケーションツールのひとつとして受け入れてくれた。
・入力前に首振りのコミュニケーションを行ったうえで入力する言葉を決めて入力しているが，いずれはタブレットのみのやりとりで会話ができるようになりたい。
・学校生活を共に過ごすうちに，YES,NO 形式の問いにスムーズに答えてもらえるようになっている。
・利用する場所が限られ，あいさつ程度だけなので，今後は活用場面を増やしたい。